

## 令和5年度 第3回学校運営協議会 議事録

開催日時 令和6年3月8日（金）14:30～

開催場所 本校会議室

学校運営協議会委員出席者

出光委員、渡邊委員、矢田委員、鳥越委員、町田委員

本校職員出席者

栗原校長、長瀬副校長、荻野教頭、遠藤、小柴、高橋、黒滝、逆瀬川、朝賀、春藤、寫寄

議題「令和5年度の課題・令和6年度に向けて」

### ○協議（分科会）

学校評価部会・キャリア開発部会

出席委員：出光委員、渡邊委員、矢田委員

出席職員：栗原校長、荻野教頭、遠藤、小柴、高橋、春藤

本校職員：学習面に関わるところでは、総合学科の特色として外部との連携が挙げられるが、コロナの落ち着きにより徐々にコロナ禍前の状況にまで取り戻されてきているように思う。

本校では、基礎学力の定着・向上をどのように図るかが常々課題となっている。総合学科らしいサポートだけでなく進学のためには学校の授業の中でいかに基礎学力の向上を図っていくのが重要であると思う。

また、来年度で3学年全てが新学習指導要領に基づくカリキュラムとなるので、どのような授業展開をしていくかも課題である。

委員：基礎学力の向上は長年の課題であるが、本学学生は基礎学力を涵養するための勉強を楽しんで行っているように思える。本学では医学部とそうでない学部とで学習を楽しむ姿勢の差が大きい。医学部の学生たちは楽しんで勉強に励んでいる印象である。学んでいて楽しくないことは身に付かないと思う。基礎学力の向上は授業をいかに楽しめるように中身を考え行えるかに掛かっているように思える。

本校職員：本校は総合学科高校であるので、その特色を活かして生徒一人ひとりにとって興味関心の高い物事を学ばせたいと考えている。

委員：生徒に合うものを授業で提供できるのか、またその生徒自身が興味を持てるように変えられるのかどうか問題なのではないか。

委員：中学校は生徒により学力の上下の差が激しく、どのレベルに合わせた授業を行っていくのかということが難しい。高校はある程度学力差が狭まっていると思われるので、その

中でどのようにして各生徒の成績を伸ばしていくのが課題になるだろう。また、成績が振るわない生徒への指導だけでなく、成績中間層の生徒をどのように指導していくのかも課題のように思える。

本校職員：中学の授業を拝見した際、先生が楽しそうに授業を行っていた。教員同士が互いに授業見学をするなど、何らかの形で中学校と連携をとれば良いと感じた。

委員：先生が楽しむためには、生徒が試行錯誤して頑張っている姿が見える状況が作れば楽しい授業につながると思う。入学してから、自分なりに得意不得意を克服できた子がいると思われるため、生徒が互いの苦手な部分をどう克服したのかなどの意見を出せる環境がある方がよいと思う。

具体的には苦手なものを助け合ってやっていくようにしたり、生徒同士で得意な子が不得意な子に教えあえる環境を作ったりしていくのが良いのではないかと思う。

委員：中学でも生徒同士が対話的に教え合う場が増えてきている。

委員：生徒自身で自分たちが苦勞している基礎教科を、どのように乗り越えていくのかを話し合うようなものがあったとしても良いのかもしれない。

本校職員：学びの中で生徒自身が学んでいて楽しいと思えるようにしていければ良いと思う。

委員：誰かに物事を教えるというスキルは、どうやって助け合うのか、どう説明するのかを自然に考えることとなるため、教える当人にとっての学びも大きい。

委員：専門学校でも学生同士がアイデアを出し合うことが重要と考えており、これを普通の授業でも行えると良いと思っている。

本校職員：本校生徒は学習以外の目的だと能力を発揮できるが、目的が勉強となると苦手な子が多い印象である。

委員：中学生と高校生とでは発達段階が違う。特に1年生の4月の時期は非常に重要であり、そこで学校生活では学習が何よりも重要なことだと思わせることが大切だと思う。

職員：本校の総合的探究の時間としてのガイダンスの授業では、職員の大きな入れ替わりや、コロナで中断していたことを再開しようしても、コロナ禍前の実施状況のようにいかない部分がかかなりあり模索をしているところである。

進路に関しては、本校のレベルでは大学は総合型選抜入学試験で合格しやすくなったと感じている。従来からの一般選抜入試は今年度8名ほどいた。基礎学力を高校生のうちに身に付けさせないと進学先で苦勞してしまうのではないかなという点を憂慮している。

委員：産業社会と人間やガイダンスは、コロナ禍前と後とでどのように変わったのか。

本校職員：外部との接触方法としてオンラインが増えた。そのため実際の現場での体験や学びがあまり行えていない。

委員：保護者との連携も大切なので、保護者に社会の現実・現状について語ってもらうのも良いのではないかと。職業人としての成功体験ではなく、仕事や生きていく中での現実の悩みを語ってもらう。産業社会と人間やガイダンスのコンセプトとして自己のキャリアを見直し、学んでいくことも重要と思う。

委員：自分自身も質問される側だった時、自分が学べることが多々あった。

委員：本校の生徒たちに将来のキャリアをどう考えるのか、という問いに対して「自分がワクワクするかどうか」と回答していて、その視点は大切だと思った。最初はまずあまり深く考えずにとりあえず取り組んでみて、途中で方向性を変えてもいいと思う。保護者の方へも、最初に『キャリアを積む、形成するとはどういうことなのか』を伝えておいてから進路説明会等での質疑応答を行うと、保護者の進路（キャリア）への理解もより深まると思う。

本校職員：総合学科推進グループでは学校外での学びのアンケートを行っており、外部との繋がり方という面ではコロナ禍の影響で弱くなってきているという結果を得たため、保護者に参加してもらうものも含め外部との関わりを深くしていこうと考えていた。

本校職員：卒業生を活用するという考えもあり、教育実習に来るOBやOGにお願いできないかと思っていたが、教育実習が10月ごろにズレたことから行えていない。

本校職員：卒業生と連絡を取りたくても連絡先が分からず、また様々に手続きが必要であるため今の教育現場では卒業生を活用するのは難しい状況である。

委員：同窓会はどの程度機能しているのか。

本校職員：コロナもあり、そこからなかなか機能はしていない。

委員：本校の学びのスタイルを次代につなげるためにも、卒業生のネットワークはとても大切と思う。

本校職員：卒業する生徒が、本校で学んで良かったと思えば連絡先を教えることを承諾してくれる生徒もいると思う。

委員：卒業生の中には卒業後も恩師に会いたいと思う生徒もいると思うので、教員にコンタクトを取れるようにすることは卒業生の権利であると思う。県立高校は生徒が恩師に会えるようにするためにも連絡先を交換できる手段を確立させるべきである。

委員：この学校評価報告書には掲載されていないが、現状教育現場で困っていることはどんなものがあるか。

本校職員：子育てや介護等による短時間勤務の教員が多く、職員が足りていない。足りていないところに関しては、臨時的任用職員や会計年度任用職員（非常勤講師）で賄っているのが現状である。

子育て等での権利を行使することは正しいと思うが、残された職員への負担が非常に大きい。グループ業務や部活動などは非常勤講師では賄えず、教員の確保は喫緊の課題である。

委員：教員の手当を拡充し、給与をもっと上げることが必要と思う。

本校職員：育児休業や介護休業などを取得したいが取得できていない人も出てきているのではないかと思う。男性も休業を取得することがあるため、給与や手当については少しでも改善してほしい。

委員：部活動を地域等へ移行することが新聞、ニュース等で話題となっているが、どのような形で現状行っているのか。

本校職員：高校でも実際に問題となっていて、教員への負担は重い、部活動顧問をやりたいと思っている教員もいる。部活動の地域移行を図ると言われているが、活動場所や指導者の確保等をどうするのかなど難しいところがある。

部活動指導員を活用するという手もあるが、必要な人員が集まらずうまくいっていない。

部活動が活発に行われていることから、学校が活気のあるものとなるという意見もあるため、部活動全てを外部へ委託するとなると、校内の活気が失われる恐れはある。

委員：時短勤務教員の勤務時間や勤務シフトなども今後の討議の際に資料に入れていただくとより実態がよりわかりやすくなると思う。

本校職員：部活動は教員にとっては勤務外のボランティアであり、また支給される手当も非常に低額であるため、このままで良いものかとは思っている。

委員：教員が部活動を含めどのくらいの時間勤務されているのか、データをこの場で共有していったほうがよいと思う。

委員：教員の年齢によって業務量は異なるのか。

本校職員：年齢というよりその教員の力量によるところが大きい。そのため業務が一定の教員に偏ってしまう可能性が生じるという問題もある。

委員：若手の離職などはどうなのか。

本校職員：本校はほとんどないが、学校によると思う。

## ○協議（分科会）

地域連携・防災部会

出席委員：鳥越委員、町田委員

出席職員：長瀬副校長、黒滝、朝賀、鳶寄

本校職員：広報の報告について 資料17ページに今年度の広報活動についての報告がある。コロナが5類移行し、行動に制限がほぼなくなり、こちらから中学校に出向く、またはバスによる中学校から本校への訪問も増え、中学校も積極的に進路選択に向けて動かれている感はある。

本校への見学者は今年度は約400名、中学校へは4校こちらより出向いて学校説明を実施した。

また、関東学院大学や横浜市立大学等で、本校の広報活動も実施することができた。

本校の今年度の入学試験倍率もそれなりの倍率となり、本校を志望する生徒が増えていると感じている。

広報とは別に、今後は防災についての活動も重要な問題と捉えている。本年度防災訓練は年2回実施し、それぞれ地震後に津波が発生する、しないの2つのパターンで実施した。防災訓練を行うにあたり、今後は地域と連携した防災体制を考えていかないとならないのではないかと考えている。

生徒に対する防災備蓄品の用意はあるが、地域住民に向けてのものは皆無であるので、その部分も考えていかなければならないと思っている。

地域連携として、聖星学園の方々と一緒に防災訓練を実施できた。今後も引き続き実施していきたいと考えている。

先程も申した通り、来年度に向けては、地域向けの防災対策に力を入れるべきと感じている。

本校職員：生徒指導としては規範意識の向上を図ることを重要事項と考えている。

県全体としては、スクールカウンセラーの配置が拡充されてきていて、本校でも週1程度来校していただいている。利用率については設定した時間帯が8～9割埋まるような利用状況である。

スクールカウンセラーには、まずは生徒や保護者の話をじっくりと聴く『傾聴』をし、それから先はしばらく様子を見ているパターンもあるが、話を聴いてみて緊急性の高い案件については適宜関係職員により対応するようになっている。

生徒の状況を調査する『かながわ子どもサポートドック』については、今年度は2回実施した。生徒が自ら解決できない悩みや、いじめにつながるような行為等がないか注視し、問題がありそうな生徒を抽出して対応するようになっている。

『かながわ子どもサポートドック』は来年度から本格実施されるかと思われるので、こちらとしても生徒の状況を知るため有効に活用していきたい。

家庭環境や経済状況などの相談については来校頂いているソーシャルワーカーを活用し、相談等を実施している。

生徒の規範意識については、地域からお叱りを受けることがあり、ご迷惑をお掛けしている面もあるが、職員も数回通学路に出向いて指導を実施している。生徒自身が意識を変えて欲しいと思っはいるが、なかなか難しい。

本校職員：5月にコロナの扱いが変わり、体育行事としては明耀祭を、文化行事としては翔総祭を無事に実施できた。

翔総祭では今回は飲食物を提供することについて、生徒中心に企画立案し、それを教員がサポートする形で実施できた。

翔総祭については、生徒をサポートする教員の数が足りず、後援会の皆様にお世話になった。改めて御礼申し上げる。

コロナ禍の生徒に与える影響は大きく、コロナ禍で中学時代には実施できなかったであろう事柄も多いように見受けられ、本来であれば生徒が自ら動き、それを教員がフォローする体制としたいと思っているのだが、未だ、生徒が自ら動きだし活動していく体制にはなっていない状況である。今後は生徒がやりたいと思っていることをもっと伸ばしてあげられるような支援や活動としたい。

今年度の生徒会選挙では生徒会役員がほぼ入れ替わった。生徒会長を中心に明るく活動できるようにこちらもサポートしていきたい。

本年度の部活動実績については、資料中に各大会で入賞したものを掲載しているが、それ以外でも地道に頑張っている生徒は多い。

来年度は体育館が耐震工事のために数ヶ月間使用できなくなるため、体育館を使用する部活動にどのような活動をさせてあげられるのかが課題である。

委員：防災訓練について、本校を利用して実施できたことは嬉しく思う。来年度も是非続けていきたい。近隣の他の施設（ケアプラザや保育園等）とも連携できないかと思っている。

委員：生徒会役員がケアプラザへ出向いていき、利用者と一緒に防災訓練を実施することは良いと思う。

本校職員：生徒会役員だけでは人数が限られ、幅広い活動とはならない可能性があるため、生徒会役員だけではなく、各クラスの生活委員を派遣するようにはどうか。

本校職員：本校の生活委員は風紀委員的な活動はしていないので、派遣することはできそうではあるが、いかんせん一度も実施したことがないため、最初はどうしても探り探り始める形にはなってしまうと思われる。

本校職員：生活委員であれば40人以上の生徒がいるので、様々な地域・場所へ派遣することは可能である。

本校職員：生徒が保育園等の子どもの避難を手伝う取り組みを他校で実施している事例はあるが、どの程度の規模で訓練を実施するべきなのかを考えねばならない。

ただし、避難してくる方を守ることも重要ではあるが、生徒自身を守ることも大切なので、そこをどうバランスを取るべきなのかは難しいと思われる。

本校職員：本校を避難場所として、避難してきた方を生徒が実際の避難場所（教室等）へ誘導したりすることは可能ではないかと思う。

外部の方が避難場所を知ってもらう意味でも本校を訪れてもらったほうが良いのではないか。

本校職員：本校生徒と近隣地域とを絡めた訓練内容を考えていければ良いと思う。

本校職員：3月11日には京浜急行でも列車を一時停車させるなどして訓練を実施するようであるので、それに時期を合わせたような訓練を実施するようにしても良いかもしれない。

委員：避難場所に本校を使用するとして、学校内のどの部分を使えるのかわからない（体育館が耐震化工事されることも含め）。

体育館工事中は体育館に避難は出来ないであろうから、地域住民が避難してきた時に、どこを使用するのか決めておいた方が良くとも思う。

津波を想定した訓練を実施していると伺ったが、生徒の意識や行動はどうだろうか。

本校職員：授業で防災についても教えているが、生徒へ地震が起きたらどこに逃げるかと問うと、高いところへ逃げると答えるので、津波への意識付けはできているように思う。

ただ、地域住民が避難してきたとして、自分たちのことだけでなく、他人を助けるという意識はあまり醸成されていないように思う。

本校職員：年頭に発生した能登地震では、液状化による道路寸断があったので、本校に非常防災品を備蓄する意味合いはあるように思う。ただ、本校は埋立地に立地しているので、発災時には液状化は起こると思っていたほうが良いとも思う。

それを踏まえて防災訓練の方法を進化させていかねばならないが、時間とコストが難しい。

本校職員：本校の防災備蓄品については生徒が自己負担している。地域のみなさんのものについては、どこが費用負担するのか、市なのか県なのか、その辺りも考慮すべきと考える。

委員：生徒の非常備蓄品は3日分用意されていると聞いている。

本校職員：その通りである。その他資機材としては発電機やプールの水を浄化するものがある。

本校職員：広報については何か意見があるか。

委員：ホームページは適宜更新されていて良いと思う。今後も適宜情報を伝えてほしい。

本校職員：本校生徒の規範意識についてご意見があれば伺いたい。

本校職員：道路の通行マナーについては京急富岡駅までの歩道が狭いので、1列で歩けと言ってもそれを守らせることは難しいように思う。

本校職員：本校に頂戴したご意見の中には、通行マナーを注意された人へ暴言を吐いてみたり、駅のエレベーターを大勢の生徒が使っていて地域住民が使用しづらい状況としてしまったりといったものがある。

本校職員：駅のエレベーターについては、生徒は使わずに済む方が良いという気持ちにはならないようだ。

本校職員：生徒がエレベーターを使う権利は当然にあるのだが、例えば身体の不自由な方がいるときには優先して使ってもらえるようにするなど、TPOをわきまえ、考えられるようにした方が良いように思う。このことについては、生徒自身が将来様々に不自由な思いをし、エレベーターでしか移動できない状況とならないと分からないのかも知れない。

本校職員、委員：生徒の他人に対する思いやりが足りないのかもしれない。

本校職員：交通マナーについて生徒を指導していても、例えば赤信号で横断歩道を渡ってしまう大人がいたりして、大人がルールを守ってくれないのは指導上どうにかならないかとは思う。

委員：京急富岡駅付近で数年前に発生した死亡交通事故も、喉元すぎれば…という感じがある。

委員：現状の学校行事についてはコロナによる規制はあるのか。

本校職員：規制はほぼ取り払った状態で実施している。ただ、コロナ禍前の文化祭がどういうものだったのかを知らない教員も多く、生徒をサポートする側としてもどのようなサポートを行うべきなのかの判断が難しい。

委員：気になることとしては、校内に駐輪場があるのに地区センターに自転車を停めている生徒が散見される。なぜだろうか。

本校職員：原因は分からないが、整備不良車なのか…詳しく調査をしてみようと思う。

本校職員：地域の皆様にこれからもお世話になりながら、活動を進化させていければと思う。

## ○全体会

本校職員：それぞれの部会で様々に意見の交換が出来たのではないかと思います。  
それぞれの部会でどのようなことが話し合われたのか、委員の皆様にご発言をお願いしたい。

委員：基礎学力の向上をどう図るかについてだが、これはそれぞれの科目の基礎を積み上げていく他ないと感じている。

キャリア形成については、直接生徒が外部の方と顔を合わせて活動する機会が、オンラインのものが増えていることから少なくなっている。折角保護者がいるのだから、社会での現実の大変な面の話をしていただけると良いのではないかと思います。

委員：良い案で面白いと思う。

委員：基礎学力の向上については、学習が楽しいことが第一であり、生徒同士で教え合うのも良いのではないかと思います。

キャリア形成については、キャリアの理論を学ぶことや、それに向けてどういう行動をするべきなのかなどを知ることが大切であり、それを学べるワークショップなども検討してもよいのではないかと。また、卒業生に協力してもらって授業を作っていくのも良いのではないかと。

本校職員：キャリア部会について聞いてみたいことはあるか。

委員：福祉に関わる科目はいくつあるか。

本校職員：3科目である。

委員：現状保育業界は保育士不足で困っており、その結果園児の数を減らさなければならなくなっているという現状がある。保育関連を学ぶことができる科目はあるのか。

本校職員：保育基礎がある。

委員：生徒には保育や高齢福祉だけでなく、障害者福祉にも興味をもってくれるとうれしいと思う。

本校職員：それについては特別支援交流という講座があり、近隣の支援学校に出向いて授業を実施することもある。生徒は福祉系の教科を選択していても興味があるが、進学先という面では必ずしも福祉系に進むわけではない。授業はあくまで授業であり、それが生徒の将来のキャリアにつながるかは分からない。

委員：今の世の中、職業選びには職場環境が大きく影響しているように思う。

委員：本校の近隣には聖星学園があり、ケアプラザがあり、保育園がある。これらと協力して何かできないか。

本校生徒と今よりももう少し深い関係に（合同で）なってやっていければいいと思う。

委員：地域連携として、地域から苦情が出てきていることから、地元に着し、なるべく過ごしやすいものとしていくような方法で解決を目指してはどうかと思っている。

委員：苦情とは実際どのようなものか。

本校職員：本校近くのファミリーマートの交差点で生徒が通学時、帰宅時に横断歩道を大勢で通行するため、信号が青でも車がほとんど交差点を通過できないことや、京急富岡駅への道でも生徒が通行することで通りづらくなっているというドライバーとのトラブルや、京急富岡駅でのエレベーターの使用マナーについてなどである。

本校職員：生徒の気持ちもわかるが、結局はモラルの問題であると思う。

委員：そのような苦情を教材化してみる、例えば本校であれば課題研究に利用するのもいいのではないか。

課題研究を通じて、地域が抱える問題を自分事として考えることができるようになれば良い。卒業し社会に出れば、苦情を処理するような場面に出くわすことも多いと思う。例えばクレーム対応をどうすればいいものか、産業社会と人間やガイダンスで教材として使えるようになると良いとも思う。ただし、生徒も周りから苦情や文句を言ってもらえているうちがハナとも言える。

先生方も対応に苦慮なさっているとは思いますが、例えば、教員が道や駅に立ち直接指導することはあまり良い策とは言えないと思う。

委員：専門学校の見学会には保護者の方や若手の先生に来ていただいて、進路選択において自分のことを見つめ直すきっかけとなったようで良かったように思える。

また、専門学校の現状を知ることができて良かったという意見も頂戴しているので、来年以降も続けていきたい。

校長：本日は大変お忙しい中、足をお運びいただき感謝申し上げます。雰囲気の良い中建設的な話し合いができていたように感じたので、今後もそのように続けていけたら良いと思う。頂戴した貴重なご意見を今後の学校運営に活かしていきたいと思う。